

健康づくりの推進に ついで

おがわ
小川

しげる
茂 議員



A フレイル予防事業への取組が 重要である

問 健康づくりの取組と事業経費について。

答 健康増進課では、「健康づくり推進事業」「食育推進事業」「地域でスクラム・健康マイレージ事業」に、新たに「フレイル予防啓発事業」を加え、今年度は221万円を計上している。平成29年度決算における市全体の健康づくり事業経費は、健康増進課を含め、

19部署による健康講座や介護予防事業など、延べ112事業が実施され、2億円を超える事業規模となっている。

問 地域でスクラム・健康マイレージ事業について。

答 参加者のアンケートや歩数、医療費の分析から、市民の健康意識の向上や医療費削減などの効果が明らかになっている。今後も引



定例健康ウォーク

き続き、ウォーキングによる健康づくりの普及に努め、埼玉県との連携により本事業を推進していく。
問 今後の課題と取組について。
答 団塊の世代が75歳を迎える2025年以降は、要介護者が急増することが予想され、市民の健康意識の向上や地域とのつながりづくり、伸び続ける医療費等の抑制が課題である。これらの課題解決のためには、今までの介護予防に加え、フレイル予防事業への取組が重要である。

Q シビックプライドの 醸成とまちづくり

うちの よしひろ
内野 嘉広 議員



A まちづくりに大変有用なものである

問 本市におけるシビックプライドの考え方について。
答 郷土愛から生まれるシビックプライドのような高い意識を持つ市民が増えれば、ボランティア意識の高まりなど、まちづくりへの好影響が期待される。転出者数の抑制も考えられ、まちづくりに大変有用なものと考えている。
問 政策的観点からの活用は。
答 市民のまちづくりへの考えを事業に反映できる市民提案による協働事業や寄附によるまちづくりの取組など、市では市民参画によるまちづくりに取り組んでいる。また、市の附属機関等への公募による委員の選任も推進している。

現在策定中の第6次総合計画でも、まちづくり審議会が委員として参加している。高い関心を持つ方に市の政策形成過程に参加いただいている。
問 教育的観点からの活用は。
答 現在では、市内全ての中学校で生徒の地域ボランティア活動への参加の仕組みが整ってきており、特に南中学校区では、わいわいやがやまつりなどの地域イベントに生徒が積極的にボランティアとして参画している。今後も、市の歴史や文化に誇りを持ち、積極的に地域の活動に参画しようとする児童・生徒の育成に努めていく。

